

オリエンタル系ユリの球根肥大状況について(10月13日現在)

平成28年10月19日
 経営普及課
 (農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センター、中山間地農業技術センター、高冷地農業技術センターにおけるオリエンタル系ユリ球根定期観測結果から、今年の球根肥大及びノーズ形成状況についてのデータを紹介します。

1 供試球根

(1) 調査品種：カサブランカ (2015年オランダ産TYS球根)

(2) 球根サイズと前年との比較

供試年度	球根サイズ	球根重(g)	球周(cm)	りん片(枚数)	葉数(枚)
2016	14/16	47.3	16.2	25.7	35.8
2015	14/16	41.8	15.2	24.3	35.2

※3センターとも同一ロットの球根を供試し、園芸研究センターで調査した。

2 耕種概要

観測場所(所在地)		園芸研究センター(聖籠町)	中山間地農技センター(長岡市川口)	高冷地農技センター(津南町)
栽植距離		20×20cm 4条植	20×20cm 4条植	20×20cm 5条植
定植日(前年度定植日)		4月1日(4月8日)	4月19日(5月25日)	4月27日(5月2日)
施肥 N-P ₂ O ₅ -K ₂ O (kg/10a)	基肥	15-15-15 (4/1)	14-12-13 (4/10)	19-15-19 (4/26)
	追肥(実施日)	5- 5- 4 (6/2)	無施用	3-4.2-3.6 (6/30) 3-4.2-3.6 (7/20)

3 生育状況

- (1) 各センターとも定植後は天候に恵まれて順調な生育を示し、茎長は前年を上回っている。
- (2) 開花盛期は、園芸研究センターで7月11日(前年7月17日)、中山間地農業技術センターで7月22日(前年7月31日)、高冷地農業技術センターでは7月31日(前年8月3日)と、いずれのセンターとも前年より早まった。
- (3) 園芸研究センターと中山間地農業技術センターでは、葉の黄化が徐々に進んでいる。
- (4) 各センターとも球根肥大は前年より良好で、球根重・球周は前年の収穫時を上回っている。
- (5) 高冷地農業技術センターと園芸研究センターでは、新球内のノーズの立ち上がり及び葉分化は順調に進んでいる。中山間地農業技術センターでは、調査6株中3株でノーズの立ち上がりが確認されている。

4 具体的データ

添付ファイル「L20161013data」及び図1～図9を参照。

※ 次回の生育情報は、10月27日調査のユリの球根肥大及びノーズ形成状況(第6報)をお知らせする予定です。



図1 園芸研究センターにおける生育状況（左：養成ほ場、右：調査株）



図2 園芸研究センターにおける球根肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図3 園芸研究センターにおけるノーズの伸長状況



図4 中山間地農業技術センターにおける生育状況（調査株）



図5 中山間地農業技術センターにおける球根肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図6 中山間地農業技術センターにおけるノーズの伸長状況（6球中3球でノーズ立上り）



図7 高冷地農業技術センターにおける生育状況（左：養成ほ場、右：調査株）



図8 高冷地農業技術センターにおける球根肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図9 高冷地農業技術センターにおけるノーズの伸長状況